富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第32集

能越自動車道関連
埋蔵文化財包蔵地調査報告

大野中遺跡隣接地
稲積天坂遺跡隣接地
NEJ－26（稲積オオヤチ南遺跡）
NEJ－28（稲積天坂北遺跡）

2006年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部と石川県能登半島地域の高速交通体系の確立や沿岸地域の活性化を目指し、北陸自動車道小矢部砺波ＪＣＴから高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所では、この能越自動車道建設に伴い、平成４年度から発掘調査及び遺物整理の事業を実施しております。今年度までに五社遺跡、開発大滝遺跡、地崎遺跡（小矢部市）、石名田木舟遺跡（小矢部市・高岡市）、箕島遺跡、江尻遺跡、下老子笹川遺跡、近世北陸道遺跡、手洗野赤浦遺跡、岩坪岡山島遺跡、板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群、堂前遺跡（高岡市）、惣領野際遺跡、惣領浦之前遺跡、上久津呂中屋遺跡、中谷内遺跡、中尾茅戸遺跡、中尾新保谷内遺跡、神明北遺跡、大野江淵遺跡、大野中遺跡、七分一堂口遺跡、加納谷内遺跡（氷見市）の発掘調査を行いました。

本書は、能越自動車道氷見ＩＣ～灘浦ＩＣ間に所在する大野中遺跡隣接地（氷見市大野）、稲積天坂遺跡隣接地・ＮＥＪ－26・ＮＥＪ－28（氷見市稲積）における埋蔵文化財包蔵地の範囲や、遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。

その結果、路線内で、大野中遺跡、稲積天坂遺跡、稲積オオヤチ南遺跡、稲積天坂北遺跡を確認しました。調査の成果が、今後の遺跡調査や研究等の一助となれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり、格別の御協力と御配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成18年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所　長　桃野　真晃

例　言

1　本書は平成17年度に氷見市大野地内、稲積地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の調査報告書である。

2　調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が国土交通省からの委託を受けて実施した。

3　調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査第一課長　神保孝造が総括した。調査期間と調査員は次のとおりである。

大野中道跡隣接地（平成17年10月25・26日）

調査員　主任　菅田　薫・岡本淳一郎・金三津道子・中村亮仁、埋蔵文化財技師　泉　英樹・杜山貢

稲積天坂遺跡隣接地（平成17年10月24日）

調査員　主任　菅田　薫・岡本淳一郎・金三津道子・中村亮仁、埋蔵文化財技師　泉　英樹・杜山貢一

ＮＥＪ－26（平成17年５月30日～６月１日・10月17日）

調査員　主任　菅田　薫・岡本淳一郎・金三津道子、文化財保護主事　町山賢一・西川麻野・杉山大晋　埋蔵文化財技師　泉　英樹・杜山貢一

ＮＥＪ－28（平成17年５月30日～６月１日・10月18日～10月21日）

調査員　主任　菅田　薫・岡本淳一郎・金三津道子・中村亮仁、文化財保護主事　新宅　茜・林　昭男　埋蔵文化財技師　泉　英樹・杜山貢一

4　発掘調査・資料整理・本書の作成にあたっては、下記の方々から御教示を頂いた。記して深甚なる謝意を表したい。（敬省略・五十音順）

大野　究・橋本正春・廣瀬直樹

5　本書の編集は金三津が担当し、執筆分担については各文末に記した。

6　遺物の写真撮影は、調査第一課主任　島田美佐子が行った。

7　出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

8　トレンチ一覧表には各層から出土した遺物の略号を記し、土層自体を検出していない場合は－で示した。出土遺物の略号は次のとおりである。

縄土＝縄文土器　**土師**＝土師器　**須恵**＝須恵器　**珠洲**＝珠洲　**越瀬**＝越中瀬戸　**近磁**＝近世磁器

目　次

Ⅰ　位置と環境 …… 1
　1　位置と地形 …… 1
　2　周辺の遺跡 …… 1
Ⅱ　調査の経緯 …… 3
　1　調査の契機と既往の調査 …… 3
　2　調査に至るまで …… 3
Ⅲ　調査の概要 …… 4
　1　大野中遺跡隣接地 …… 4
　2　稲積天坂遺跡隣接地 …… 6
　3　ＮＥＪ－26（稲積オオヤチ南遺跡） …… 8
　4　ＮＥＪ－28（稲積天坂北遺跡） …… 10
Ⅳ　小括 …… 14
引用参考文献 …… 15

図目次

第１図　調査地の位置 …… 1
第２図　能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡 …… 2
第３図　大野中遺跡隣接地トレンチ位置図 …… 5
第４図　稲積天坂遺跡・同隣接地トレンチ位置図 …… 7
第５図　ＮＥＪ－26トレンチ位置図 …… 9
第６図　ＮＥＪ－28トレンチ位置図（１） …… 11
第７図　ＮＥＪ－28トレンチ位置図（２） …… 12
第８図　今回の調査により新たに確認された遺跡の位置 …… 15

表目次

第１表　既往の調査一覧 …… 3
第２表　大野中遺跡隣接地トレンチ一覧 …… 4
第３表　稲積天坂遺跡隣接地トレンチ一覧 …… 6
第４表　ＮＥＪ－26トレンチ一覧 …… 8
第５表　ＮＥＪ－28トレンチ一覧 …… 13
第６表　平成17年度埋蔵文化財包蔵地調査結果一覧 …… 14

写真図版

図版１　大野中遺跡・稲積天坂遺跡・ＮＥＪ－26・28航空写真（1963年撮影） …… 16
図版２　大野中遺跡・稲積天坂遺跡・ＮＥＪ－26・28航空写真（2003年撮影） …… 17
図版３　大野中遺跡隣接地 …… 18
図版４　稲積天坂遺跡隣接地 …… 19
図版５　ＮＥＪ－26 …… 20
図版６　ＮＥＪ－28 …… 21
図版７　ＮＥＪ－28 …… 22
図版８　出土遺物 …… 23

Ⅰ　位置と環境

1　位置と地形（第１図）

氷見市は富山県北西部にあり、能登半島の基部に位置する。三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上山丘陵に囲まれ、東は富山湾に面している。市域の約８割を占める丘陵は新第三紀と第四紀層の泥岩が広く分布し、地滑り地形が多く認められる。市北半部は仏生寺川・上庄川・余川川・阿尾川・宇波川などの河川とその支流からなる谷地形で、市南半部は主として「布勢水海」と呼ばれた潟湖が川の堆積物で埋め立てられた沖積平野と、その砂嘴として発達した砂丘からなる。「布勢水海」は現在では十二町潟と呼ばれ、近世以降の干拓により縮小し、大部分は広い水田地帯となっている。

第１図　調査地の位置

能越自動車道建設予定地は氷見ＩＣ以北では、丘陵地を中心に時折平野部を北北東に縦断しながら、県境の氷見市脇まで続く。今年度、包蔵地確認調査を実施した埋蔵文化財包蔵地では、大野中遺跡隣接地が上庄川下流右岸の平野に位置する。稲積天坂遺跡隣接地・ＮＥＪ－26・28はいずれも余川川下流域の平野に位置し、稲積天坂遺跡隣接地・ＮＥＪ－28は右岸に、ＮＥＪ－26は左岸に位置している。

2　周辺の遺跡（第２図）

大野中遺跡隣接地周辺では、中尾新保谷内遺跡（18）・神明北遺跡（17）・大野江湯遺跡（16）・七分一堂口遺跡（14）・大野中遺跡（15）の本調査を当調査事務所が実施しており、古墳時代～近世の長期に渡る集落跡を確認している。大野中遺跡隣接地は今年度に本調査を実施した大野中遺跡の南側に位置する。これらの遺跡が所在する上庄川流域は、古代では「阿努郷」、中世では「阿努庄」の領域に比定されている。大野中遺跡と稲積天坂遺跡（10）の間の丘陵には、加納南古墳群（13）[注1]や、５世紀前半の帆立貝形古墳を含む４支群16基の古墳からなる加納蛭子山古墳群（33）、昭和48年に市指定史跡に指定された加納横穴墓群（32）、木谷城跡（11）がある。加納南古墳群と加納蛭子山古墳群は狭い平野を挟んで対する丘陵上にあり、間の平野部には加納谷内遺跡（12）がある。加納谷内遺跡は当調査事務所が本調査を実施し、縄文時代～近世に渡る集落跡を確認している。稲積天坂遺跡隣接地は木谷城跡北側の丘陵裾に位置し、平成16年度に確認調査を実施した稲積天坂遺跡の西側に位置する。市道鞍川稲積線を挟んでＮＥＪ－28、さらに余川川を挟み、稲積オオヤチ古墳群（７）のある丘陵裾にかけてＮＥＪ－26が確認されている。余川谷と称される余川川流域には、下流域を中心に阿尾島田古墳群（21）、稲積ウシロ古墳群（23）、稲積オオヤチ古墳群などの古墳群が築かれ、安定した生産基盤を持っていたと推定されている。古代では余川谷村遺跡（30）、余川海老田遺跡（29）、余川親ヶ谷内遺跡（26）、稲積後池遺跡（25）などがあり、丘陵裾や小谷に立地することから水田の背後に成立した集落と考えられ、奈良時代には平野全体が開発されたとみられている。中世には丘陵の尾根筋を中心に木谷城跡、水谷城跡（31）、海老瀬城跡（24）、稲積城跡（22）などの山城が築かれている。また、余川川及び上庄川流域は泉中尾廃寺跡（34）や加納中程経塚（13）、余川古寺谷内遺跡（28）などの他、寺院伝承地や墓地、経塚、石造物集積地など宗教関連の遺跡が多くみられる。

注１　「氷見市史７　資料編五　考古」所収の加納中程古墳群と同一遺跡である。ここでは、富山県埋蔵文化財包蔵地地図（富山県ＧＩＳサイト）の登録名称を用いる。

第２図　能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡（1：50,000）

Ⅱ　調査の経緯

1　調査の契機と既往の調査（第１表）

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部・能登地域の高速交通体系の確立及び地域活性化のため昭和62年の高規格幹線道路計画の一環として、石川県輪島市から富山県砺波市に至る延長約100㎞の自動車専用道路として計画された。平成２年にこの工事計画を受け、国土交通省（以下、国土省）富山工事事務所・県教育委員会（以下、県教委）・小矢部市教育委員会で協議が行われ、小矢部市域の分布調査を行うことが決定した。また、平成４年度からは、当財団が国土省から委託を受け発掘調査を実施している。これ以降、能越自動車道関連の調査は、分布調査を県教委、包蔵地確認調査（以下、確認調査）・本調査を地元教育委員会及び当財団が主体となり継続して実施している。

2　調査に至るまで

平成14年度及び平成15年度に、県教委により能越自動車道氷見ＩＣ～県境間での分布調査が実施され、ＮＥＪ－22～30の９箇所の埋蔵文化財包蔵地と２箇所の埋蔵文化財包蔵推定地の確認と、周知の遺跡５箇所の範囲が再確認された。

平成16年度には、当財団がＮＥＪ－22～25・27・29及び中尾埋蔵文化財包蔵推定地の確認調査を実施し、ＮＥＪ－22・23・24・25・27を各々「大野中遺跡」・「七分一堂口遺跡」・「加納谷内遺跡」・「稲積天坂遺跡」・「宇波西遺跡」とした。このうち、ＮＥＪ－22については、南側で遺構・遺物が確認されたことから、さらに南側へ遺跡範囲が広がる可能性があり、南側未買収地での確認調査が必要であることが提示された。また、ＮＥＪ－25については、ＮＥＪ－28と隣接することから、調査対象外であった宅地部分での確認調査を行い、本調査の有無について判断する必要があることが示された。

平成17年５月13日、富山河川国道事務所において国土省、財団で協議が行われ、ＮＥＪ－26・28について早期に確認調査を実施して欲しいとの要望を受けて、財団は５月30日から６月１日にかけて確認調査を行った。

平成17年８月25日、富山河川国道事務所において国土省、県教委、財団で協議が行われ、財団はＮＥＪ－26・28の調査結果を報告し、ＮＥＪ－26・28とも未買収地及び新たに確認調査が必要な範囲を提示した。また、ＮＥＪ－28については、未買収地が多く、遺跡範囲や隣接する稲積天坂遺跡との境界が明確でないことを報告した。その席で国土省から、平成16年度及び平成17年５月の確認調査においてそれぞれ隣接地へ遺跡範囲の広がる可能性が示されていたＮＥＪ－22・25・26の範囲確認と、ＮＥＪ－28の買収が終了した箇所への確認調査を今年度中に終了して欲しいとの要望がなされた。これを受けて財団は、大野中遺跡隣接地（ＮＥＪ－22）を10月25日・26日、稲積天坂遺跡隣接地（ＮＥＪ－25）を10月24日、ＮＥＪ－26を10月17日、ＮＥＪ－28を10月18日～21日まで調査した。

年度	調査対象地	調査種類	調査主体	調査面積（㎡）	調査期間	調査結果
平成16	板屋谷内Ｂ古墳群	本発掘	財　団	4,465	6/7～12/16	２基の古墳を調査
	板屋谷内Ｃ古墳群	本発掘	財　団	4,417	6/7～12/16	５基の古墳を調査
	上久津呂中屋遺跡	本発掘	財　団	14,169（延17,490）	5/28～12/14	縄文時代の自然流路、弥生時代・中世の集落を調査
	中谷内遺跡	本発掘	財　団	16,196（延26,429）	5/27～12/17	古墳時代・古代・中世の集落を調査
	中尾新保谷内遺跡	本発掘	財　団	2,552（延2,839）	5/25～12/9	中世の集落を調査
	大野江辺遺跡	本発掘	財　団	12,229	5/27～11/9	中世の集落を調査
	安原Ａ遺跡	本発掘	氷見市教委	1,230	9/6～12/17	古代・近世の遺構・遺物を確認
	正保寺遺跡	本発掘	氷見市教委	1,500	6/1～9/2	古代・中世の遺構・遺物を確認
	中尾埋蔵文化財包蔵推定地	包蔵地確認調査	財　団	109（対象16,200）	11/18～11/19	調査範囲内では遺構・遺物は確認されなかった
	ＮＥＪ－22	包蔵地確認調査	財　団	184（対象1,800）	5/25～5/26	大野中遺跡を設定
	ＮＥＪ－23	包蔵地確認調査	財　団	630（対象12,470）	5/27～6/1 12/9～12/10	七分一堂口遺跡を設定
	ＮＥＪ－24	包蔵地確認調査	財　団	1,492（対象25,700）	5/25～6/4	加納谷内遺跡を設定
	ＮＥＪ－25	包蔵地確認調査	財　団	630（対象9,800）	12/6～12/9	稲積天坂遺跡を設定
	ＮＥＪ－27	包蔵地確認調査	財　団	564（対象18,600）	11/29～12/6	宇波西遺跡を設定
	ＮＥＪ－29	包蔵地確認調査	財　団	875（対象13,600）	11/29～12/3	調査範囲内では遺構・遺物は確認されなかった
平成17	上久津呂中屋遺跡	本発掘	財　団	3,012（延4,556）	5/19～9/31	縄文時代の貝層、弥生時代・中世の集落を調査
	中谷内遺跡	本発掘	財　団	1,484（延2,868）	4/7～5/30	古墳時代・古代・中世の集落を調査
	大野中遺跡	本発掘	財　団	1,064	5/12～7/19	古代の集落を調査
	七分一堂口遺跡	本発掘	財　団	2,608	5/12～10/3	古代の集落を調査
	加納谷内遺跡	本発掘	財　団	17,598（延25,953）	5/16～12/22	縄文時代・古代・中世・近世の集落を調査

第１表　既往の調査一覧

※平成15年度以前における本調査・包蔵地確認調査については、財団法人富山県文化振興財団1999・2001・2002・2003・2004・2005「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告」を参照されたい。

Ⅲ　調査の概要

1　大野中（おおのなか）遺跡隣接地

（1）調査対象地（図版１・２）

大野中遺跡隣接地は上庄川下流右岸に位置する。平成16年度に確認調査を実施し、平成17年度に本調査を実施した地区の南側に隣接する。本調査の結果、遺跡範囲が南側に延びることが想定されたため、確認調査を実施することとなった。南側に隣接する水田は未買収地であったため国道415号線沿いを調査対象地とした。現況は雑種地及び水田である。標高は4.5～5.9mを測り、国道付近を頂点に南北両側へ緩やかに傾斜する。

（2）調査の方法（第３図）

幅1.6m、長さ５～30mのトレンチ（以下、Ｔとする）を５箇所設定し、重機（バックホウ）で表土から地山面または遺構面と推定される面まで掘り下げ、人力で遺構及び上層断面の検出を行った。なお、便宜上ＮＥＪ－22遺跡として確認調査を実施し、トレンチ番号は平成16年度の続き番号とした。調査対象面積は7,012㎡、調査面積は120㎡である。

（3）基本層序

Ⅰ層	耕作土	10～30cm	灰色粘土
Ⅱ層	包含層	20～30cm	灰色粘土（炭化物含む）
Ⅲ層	遺構面・地山	10～40cm	灰オリーブ色粘土
Ⅳ層			黒褐色粘土

（4）調査の状況（第３図、第２表、図版３）

Ｔ５・６では100cmほどの盛土以下、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層が堆積し、Ⅲ層上面で土坑を検出した。Ｔ６の中央部では地震による地割れと考えられる土層のずれを確認した。Ｔ５・６の確認調査の結果、さらに南側に遺跡範囲が延びる可能性が考えられたため、国道415号線以南に調査対象地を拡張し、Ｔ７～10を設定した。Ｔ７～10では、30～80cmの盛土以下、Ⅰ層（20～40cm）・Ⅱ層（30cm）が堆積し、Ⅲ層となるがⅢ層以下は全体に沼状の軟弱地盤で遺構は検出していない。

（5）出土遺物（図版８）

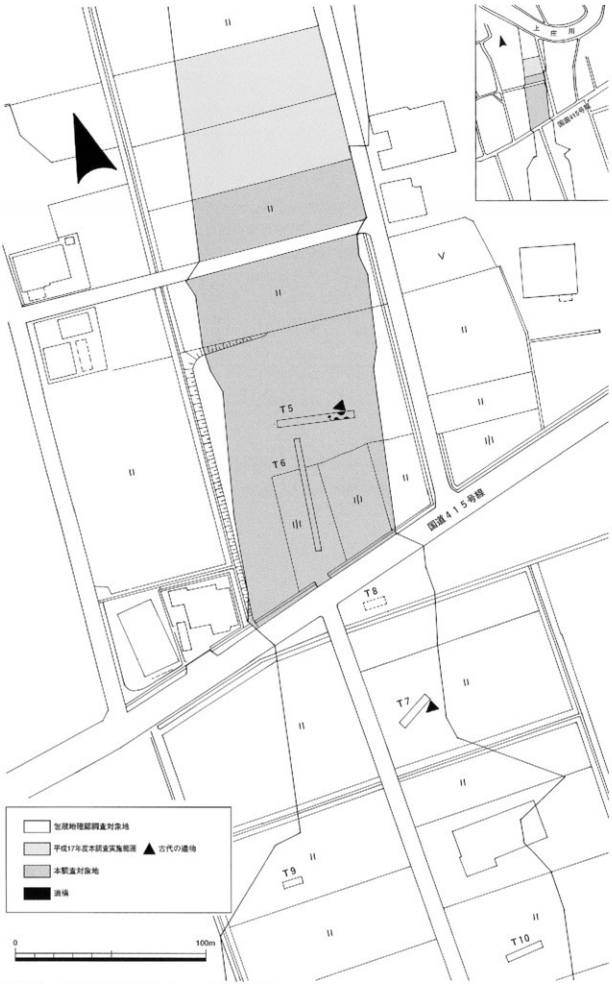
遺物は土師器・須恵器が出土した。須恵器（１・２）は甕の口縁である。土師器は小片で器種は不明。

（6）調査の結果

国道415号線以南については、Ｔ７で遺物包含層の堆積は確認できたが、出土遺物が１点のみであり、遺構も確認できなかったことから、本調査の必要はないと考えられる。大野中遺跡の路線内における遺跡の広がりは、平成17年度本調査実施地区の南側より国道415号線までとし、本調査対象面積は4,200㎡である。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	遺構
Ｔ５	20	1.5					土坑５（土師・須恵）
Ｔ６	30	1.3		須恵			土坑２
Ｔ７	10	—		須恵		—	
Ｔ９	5	—					
Ｔ10	10	—					

第２表　大野中遺跡隣接地トレンチ一覧　※Ｔ８は欠番



第３図　大野中遺跡隣接地トレンチ位置図（1：1,000）

2　稲積天坂遺跡隣接地（いなづみあまさか）

（1）調査対象地（図版１・２）

稲積天坂遺跡隣接地は余川川下流右岸に位置し、宝達丘陵から連なる小丘陵の裾部から平野部にかけて立地する。平成16年度に確認調査を実施した稲積天坂遺跡の東側隣接地で、現況は宅地跡である。標高は6.4～6.5mを測る。

（2）調査の方法（第４図）

幅1.6m、長さ10～20mのトレンチを２箇所設定し、重機（バックホウ）で表土から地山面または遺構面と推定される面まで掘り下げ、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。なお、便宜上ＮＥＪ－25遺跡として確認調査を実施し、トレンチ番号は平成16年度の続き番号とした。調査対象面積は653㎡、調査面積は48㎡である。

（3）基本層序

Ⅰ層	耕作土・盛土	10～20cm	灰色粘質土
Ⅱ層	包含層	50cm	暗灰色砂質シルト
Ⅲ層	遺構面	20～40cm	黄灰色粘土
Ⅳ層	遺構面・地山		灰白色粘土

（4）調査の状況（第４図、第３表、図版４）

現況が宅地跡であるため、コンクリート基礎を含む盛土が90～150cmと厚い。盛土はしまりがなく崩壊が激しかったため、土層の堆積状態の確認のみとし、人力による遺構検出は行わなかった。Ｔ12では、盛土以下Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層が堆積しているが、Ｔ11では、盛土以下腐植した植物遺体を含むオリーブ黒色粘土が40～80cm堆積し、Ⅳ層となる。

（5）出土遺物

遺物は出土していない。

（6）調査の結果

遺構・遺物は未検出であるが、Ｔ12ではⅡ層・Ⅲ層が安定して堆積しており、平成16年度の確認調査で遺構・遺物が確認されているＴ６に隣接することから、Ｔ12付近の1,200㎡については、本調査が必要と考えられる。稲積天坂遺跡の路線内の広がりは、市道鞍川稲積線西側の用水路及び道路以西とし、市道との間の宅地部分（Ｔ11付近）については、本調査の必要はないと考えられる。平成16年度の確認調査分を含め、稲積天坂遺跡の本調査対象面積は10,300㎡である。　（金三津道子）

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)　Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	遺構
Ｔ11	10	2.2　－	－	－		
Ｔ12	20	1.6				

第３表　稲積天坂遺跡隣接地トレンチ一覧

第4図　稲積天坂遺跡・同隣接地トレンチ位置図（1：1,000）

3　ＮＥＪ－26（稲積オオヤチ南遺跡）

（1）調査対象地（図版１・２）

ＮＥＪ－26埋蔵文化財包蔵地は余川川下流左岸に位置する。南端は余川川に接し、北端は稲積オオヤチ古墳群の所在する丘陵裾と接する。現況は水田・畑地で、標高は4.3～4.8mを測る。

（2）調査の方法（第５図）

幅1.6m、長さ５～40mのトレンチを７箇所設定し、重機（バックホウ）で表土から地山面または遺構面と推定される面まで掘り下げ、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。また、部分的に下層の状況確認のため深掘りを行った。調査対象面積は5,921㎡、調査面積は256㎡である。

（3）基本層序

Ⅰ層	耕作土	15～50cm	黄褐色砂又は粘質シルト・暗灰色粘質シルト
Ⅱ層	包含層	20～40cm	灰色粘質シルト
Ⅲ層	遺構面・包含層	10～40cm	灰色又はオリーブ黒色粘質シルト・黒褐色粘土
Ⅳ層	遺構面・地山		明緑灰色粘質シルト・オリーブ灰色粘土

（4）調査の状況（第５図、第４表、図版５）

Ｔ１～４では、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層が堆積し、Ⅳ層上面で土坑・溝を検出した。検出した遺構が北側に偏っていることから、北側へ遺跡範囲が延びる可能性が考えられたため、市道間島上稲積線以北の丘陵裾部に調査対象地を拡張しＴ５・６を設定した。Ｔ５・６では、Ⅰ層（40～50cm）・Ⅲ層（10～40cm）が堆積し、削平されたためかⅡ層はみられなかった。Ｔ６のⅣ層上面で、土坑と西へ下がる谷地形の肩を検出した。Ｔ５は全面谷地形で、反対側の肩は未検出である。Ｔ７は宅地と余川川の間の畑地で、トレンチの一部が納屋跡の土間部分と重複したため、土層確認の深掘りのみ行った。

（5）出土遺物（図版８）

遺物は土師器・須恵器・珠洲が出土した。Ｔ３の溝から古代以前の土師器、Ｔ３・Ｔ４のⅡ・Ⅲ層から土師器（６・７）・須恵器（５）、Ｔ５・６のⅢ層から珠洲の甕（３・４）が出土している。

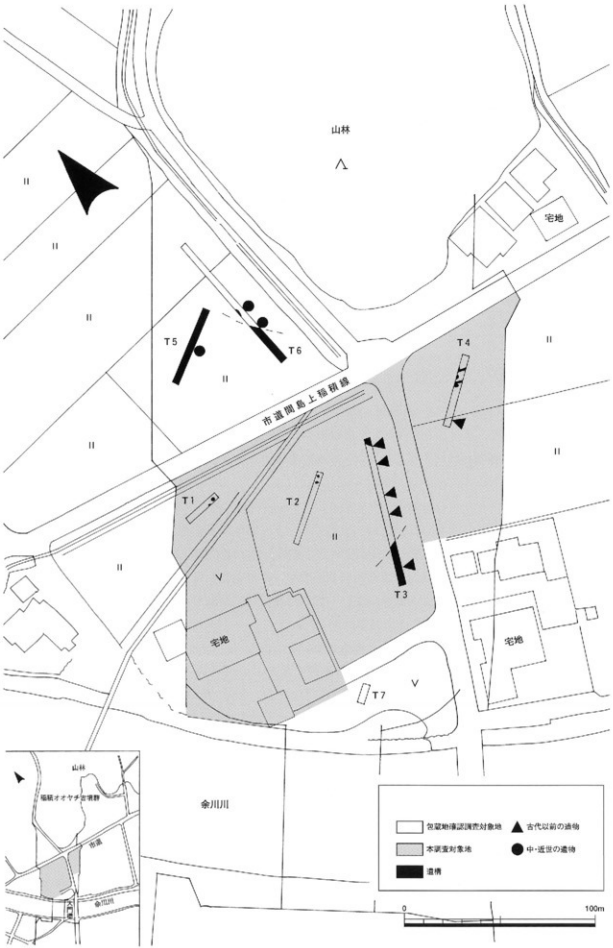
（6）調査の結果

市道間島上稲積線以北については、遺物も少なく、大部分が谷地形であることから本調査の必要はないと考えられる。Ｔ１～４にかけては、遺物は小量であるが、まとまって遺構を検出した。宅地部分については未確認であるが、遺構が延びるものと推定されることから遺跡範囲に含めるものとする。路線内の遺跡範囲は市道間島上稲積線と余川川までの間とし、本調査対象面積は7,300㎡である。

遺跡の名称は付近の字名より稲積オオヤチ南遺跡とする。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	遺構
Ｔ１	10	0.6					土坑１・地割れ１
Ｔ２	20	0.7					土坑２
Ｔ３	40	0.8			土師・須恵		溝１（土師）
Ｔ４	20	0.2～0.3		土師	土師		溝２・土坑６
Ｔ５	20	0.9		―	珠洲		谷内
Ｔ６	40	0.7		―	珠洲		土坑１・谷
Ｔ７	5	―					

第４表　ＮＥＪ－26トレンチ一覧



第5図　ＮＥＪ－26トレンチ位置図（1：1,000）

4　ＮＥＪ－28（稲積天坂北遺跡）

（1）調査対象地（図版１・２）

ＮＥＪ－28埋蔵文化財包蔵地は余川川下流右岸に位置する。県道鹿西氷見線と市道鞍川稲積線に囲まれた範囲で、市道を挟み稲積天坂遺跡と隣接する。現況は水田で、標高は5.0～5.5ｍを測る。

（2）調査方法（第６・７図）

幅1.6ｍ、長さ10～50ｍのトレンチを23箇所設定し、重機（バックホウ）で表土から地山面または遺構面と推定される面まで掘り下げ、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。また、部分的に下層の状況確認のため深掘りを行った。調査対象面積は22,805㎡、調査面積は1,032㎡である。

（3）基本層序

Ⅰ層	耕作土	20～40cm	黄褐色砂又は粘質シルト・暗灰黄色粘質シルト
Ⅱ層		10～70cm	灰色粘質シルト・黄灰色粘土（炭化物含む）
Ⅲ層	遺構面・包含層	20～100cm～	灰色又はオリーブ黒色粘質シルト・黒褐色粘土
Ⅳ層	遺構面	5～40cm	明緑灰色粘質シルト・灰黄色又は黄灰色粘土
Ⅴ層	包含層	5～60cm	黒褐色粘土（炭化物含む）
Ⅵ層	遺構面・地山		灰オリーブ色又はオリーブ黄色粘土

（4）調査の状況（第６・７図、第５表、図版６・７）

Ｔ６～18を北東部、Ｔ１～５・19～23を南西部として記述する。

北東部は市道稲積学校線により二分され、十層の堆積状態を異にする。Ｔ６～10では、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層が堆積し、Ⅲ層の一部で液状化現象がみられた。Ｔ６・７・10のⅣ層上面で溝・土坑を検出した。Ｔ６・９ではⅣ層が落ち込む谷地形の肩を検出し、Ｔ８は全面に渡り表土から1.5～1.7ｍ下まで深掘りしないとⅣ層を確認できなかった。Ｔ11～Ｔ18では、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層が堆積し、Ⅱ・Ⅲ層の一部で液状化現象がみられ、Ⅲ層上面では噴砂が確認できた。Ｔ11・14・16のⅢ層上面で溝・土坑を検出したが、Ｔ13・14・16ではⅣ層が落ち込む谷地形の肩を検出し、これより南側では表土から２ｍ以上深掘りしてもⅣ層を確認できない箇所があった。Ｔ13・15の南端では、谷地形に厚く堆積したⅢ層下に植物遺体を多く含む層があり、ここから木製品が出土した。

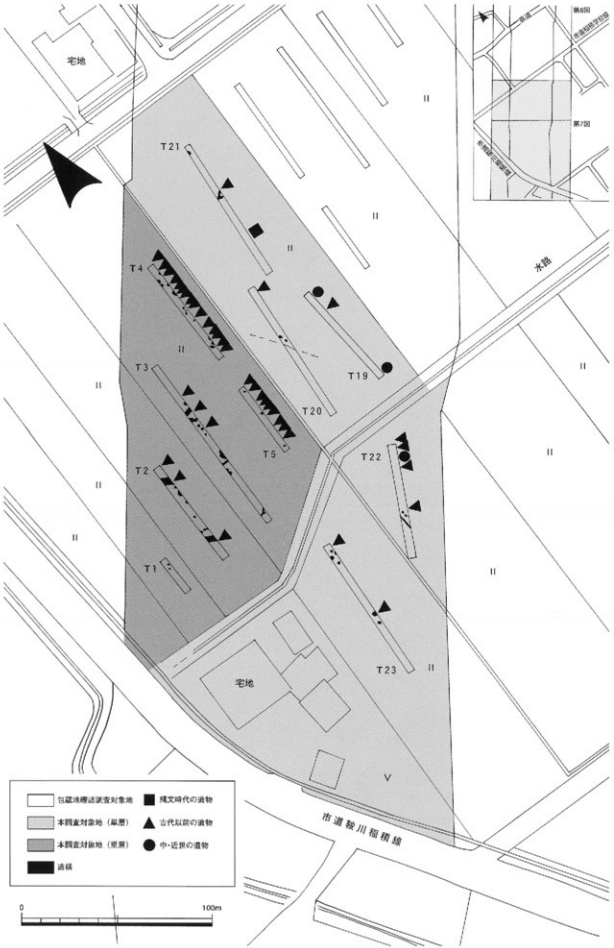
南西部はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層が堆積している。Ｔ１・２ではⅡ層がなく、Ｔ21の中央部分から南側にかけてⅤ層があがってきてⅢ・Ⅳ層が薄くなり、Ｔ19・20・22では部分的となる。Ｔ１～５・19・21・23ではⅣ層上面で溝・土坑を検出した。Ｔ20・22ではⅥ層上面で土坑を検出したが、両トレンチともⅢ・Ⅳ層が部分的であることから、他のトレンチのⅣ層検出遺構と同一面と考えられる。また、Ｔ１・４・５・22ではⅠ層直下で遺構が確認でき、一部２面の遺構面がある。Ｔ21の北端では、表土から1.9ｍ下のⅥ層中で土坑を確認したが、トレンチ壁の崩壊により詳細は不明である。

調査対象地内では、Ｔ21の中央部付近から北東部にかけて低くなり、おそらくは低湿な地形であったと思われ、Ｔ１～５・23にかかる辺りは若干高くなる微地形が確認できる。

（5）出土遺物（図版８）

遺物は縄文土器・土師器・須恵器・珠洲・越中瀬戸・近世～近代磁器・木製品が出土した。北東部の遺物は少なく散発的である。Ｔ18では表土下1.4ｍのⅢ層中で１個体に近い縄文土器が出土したが、トレンチ壁の崩壊によりすべてを取り上げるに至らなかった。南西部の遺物は大半が須恵器（８～13）で、Ｔ３～５でまとまって出土している。Ｔ21北端ではⅤ層から縄文土器が１点出土。

第６図　ＮＥＪ－28トレンチ位置図（1）（1：1,000）



第７図　ＮＥＪ－28トレンチ位置図（2）（1：1,000）

（6）調査の結果

南西部については、比較的まとまって遺構・遺物を検出したことから、宅地部分を含む市道鞍川稲積線までの11,300㎡については本調査が必要であると考える。このうちＴ１～５にかけてはⅠ層直下とⅣ層の２面の遺構検出面があり、延べ面積は15,200㎡となる。Ｔ21についてはⅥ層中で遺構を検出しており、さらに下層（３面め）が存在する可能性もあるが、隣接するＴ６・８では遺構面が下がってきていることから、３面めの存在の可能性は低いと考える。北東部については、大部分が落ち込み状の谷または沼状の地形にかかっており、谷地形以外の部分でわずかに溝・土坑が検出できたものの、遺物の出土は極小量で散発的である。このため、北東部についてはおおよそ本調査を必要としないと考えられるが、未調査の範囲で確認調査を行った上で本調査について判断する必要があり、現時点では遺跡範囲及び本調査対象面積は確定できない。

遺跡名は周辺の字名から稲積天坂北遺跡とする。　　（新宅　茜・金三津道子）

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)		Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層	遺構
Ｔ１	10	0.2	0.4		―					土坑６
Ｔ２	30		0.5	須恵	―					溝２（須恵）・土坑８
Ｔ３	50	0.4	0.5	須恵	須恵	須恵				土坑14
Ｔ４	30	0.3	0.4	須恵	須恵	須恵				土坑26（須恵）
Ｔ５	20	0.3	0.6			須恵				土坑14
Ｔ６	30		0.7			縄土	縄土			溝１・土坑９
Ｔ７	20		0.9		土師	縄土				土坑１
Ｔ８	40		―	近代磁器						
Ｔ９	30		1.3							谷
Ｔ10	20		1.2							溝１・土坑２
Ｔ11	10		0.6		土師					土坑１
Ｔ12	30		―							
Ｔ13	30		1.0							谷・噴砂？
Ｔ14	20		0.6		珠洲					溝１・谷
Ｔ15	40		1.0							噴砂？
Ｔ16	20		0.4							溝１・谷
Ｔ17	20		―							
Ｔ18	15		―			縄土				
Ｔ19	30		0.7	須恵・珠洲・越瀬						土坑１
Ｔ20	40		1.1	須恵						土坑３
Ｔ21	40		0.9	1.9		須恵		縄土		溝２・土坑１
Ｔ22	30	0.2	0.7	近磁		須恵				土坑５
Ｔ23	40		0.4	須恵		須恵				土坑10

第５表　ＮＥＪ－28トレンチ一覧

Ⅳ 小 結

平成17年度に行った4箇所の埋蔵文化財包蔵地調査の結果は次のとおりである。

1．大野中遺跡隣接地は、主に古代の遺構・遺物が確認された。大野中遺跡の路線内における範囲は、平成17年度に本調査を実施した地区（A地区）から国道415号線までの部分である。本調査対象面積は4,200㎡である。

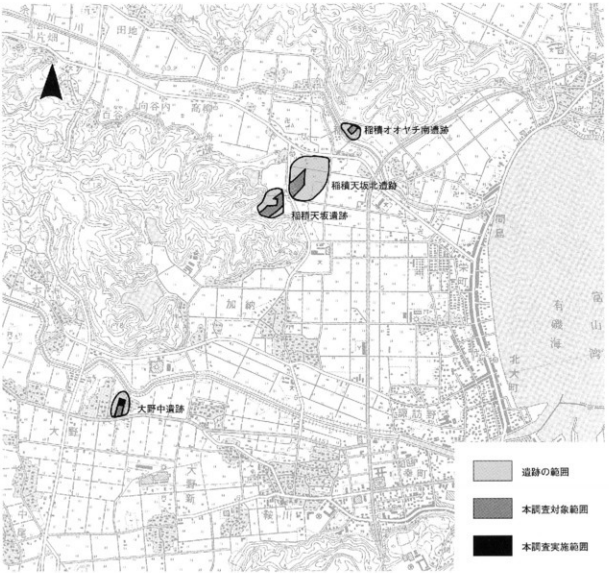
2．稲積天坂遺跡隣接地は、遺構・遺物は未検出であるが、平成16年度の調査結果より、遺構の広がりが想定される市道鞍川稲積線西側の道路までは本調査が必要と考えられる。稲積天坂遺跡の本調査対象面積は、10,300㎡である。なお、市道鞍川稲積線と用水路の間は本調査を必要としない。

3．ＮＥＪ－26は、主に古代の遺構・遺物が確認され、稲積オオヤチ南遺跡とした。本調査対象面積は7,300㎡である。

4．ＮＥＪ－28は、主に古代の遺構・遺物が確認され、稲積天坂北遺跡とした。調査対象地南半の市道稲積学校線と鞍川稲積線で画された範囲では、まとまって遺構・遺物が検出され一部に遺構検出面が2面ある。北半の市道稲積学校線と県道鹿西氷見線の間は、大部分が谷地形にかかるため、おおよそ本調査を必要としないと考えられるが、未調査範囲での確認調査を行った上で本調査について判断する必要がある。このため遺跡の範囲は未確定で、現時点での本調査対象面積は対象地南半の11,300㎡で、その一部に遺構検出面が2面あるため延面積は15,200㎡である。（金二津道子）

包蔵地名	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	遺跡有無	本調査対象面積（㎡）	主な遺構	主な遺物
大野中遺跡隣接地（大野中遺跡）	7,012	120	有	4,200	土坑	須恵器
稲積天坂遺跡隣接地（稲積天坂遺跡）	653	48	有	10,300		
ＮＥＪ－26（稲積オオヤチ南遺跡）	5,921	256	有	7,300	溝・土坑	土師器・須恵器
ＮＥＪ－28（稲積天坂北遺跡）	22,805	1,032	有	11,300（延15,200）	溝・土坑	縄文土器・土師器・須恵器・珠洲・越中瀬戸・近世磁器
合計	36,391	1,456		33,100（延37,000）		

第6表　平成17年度埋蔵文化財包蔵地調査結果一覧

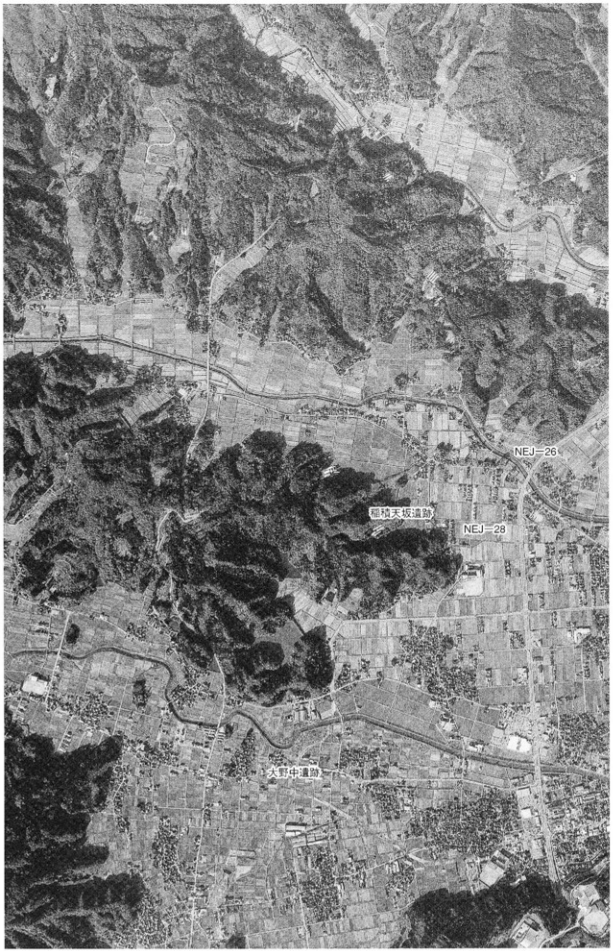


第８図　今回の調査により新たに確認された遺跡の位置（1：25,000）

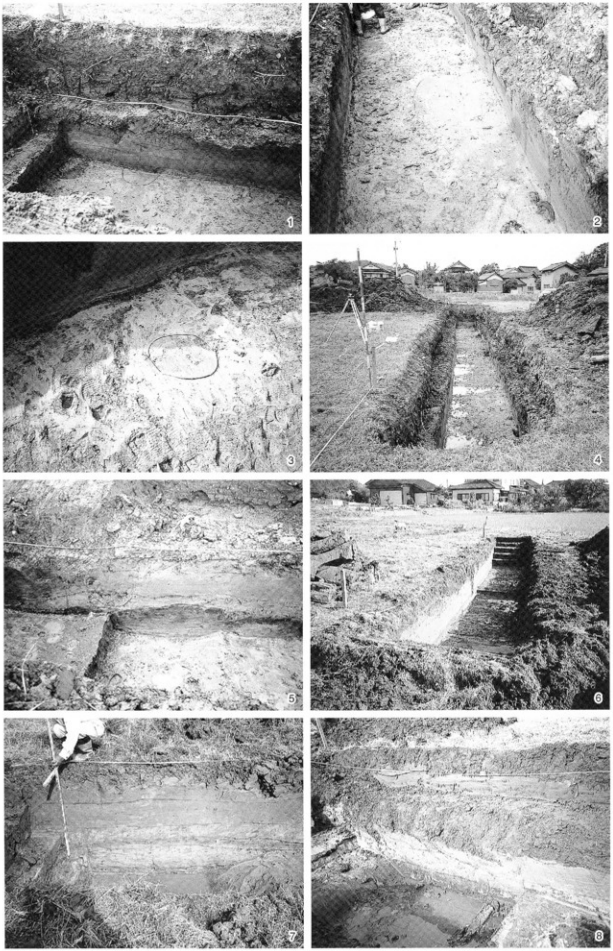
引用・参考文献

国土地理院　1998『１：25,000　地形図　氷見』
1996『１：50,000　地形図　氷見』
1988『１：50,000　地形図　虻ガ島』
財団法人富山県文化振興財団　2003『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告　ＮＥＪ－15（惣領野際遺跡）
埋蔵文化財調査事務所　ＮＥＪ－16（惣領溝之前遺跡）ＮＥＪ－17　ＮＥＪ－18　正保寺遺跡
栗原Ａ遺跡　中谷内遺跡　中尾横穴墓群　中尾茅戸遺跡』
2005『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告　中尾埋蔵文化財包蔵推定地　ＮＥＪ－22（大野中遺跡）ＮＥＪ－23（七分一堂口遺跡）ＮＥＪ－24（加納谷内遺跡）ＮＥＪ－25（稲積天坂遺跡）ＮＥＪ－27（宇波西遺跡）ＮＥＪ－29』
竹内理三　他　1979『角川日本地名辞典　16　富山県』角川書店
富山県埋蔵文化財センター　2000『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』平成12年加筆訂正
氷見市教育委員会　2001『氷見市埋蔵文化財分布調査報告（丘陵地区）Ⅰ』
2002『氷見市埋蔵文化財分布調査報告（丘陵地区）Ⅱ』
氷見市史編さん委員会　2002『氷見市史７　資料編五　考古』
1999『氷見市史９　資料編七　自然環境』

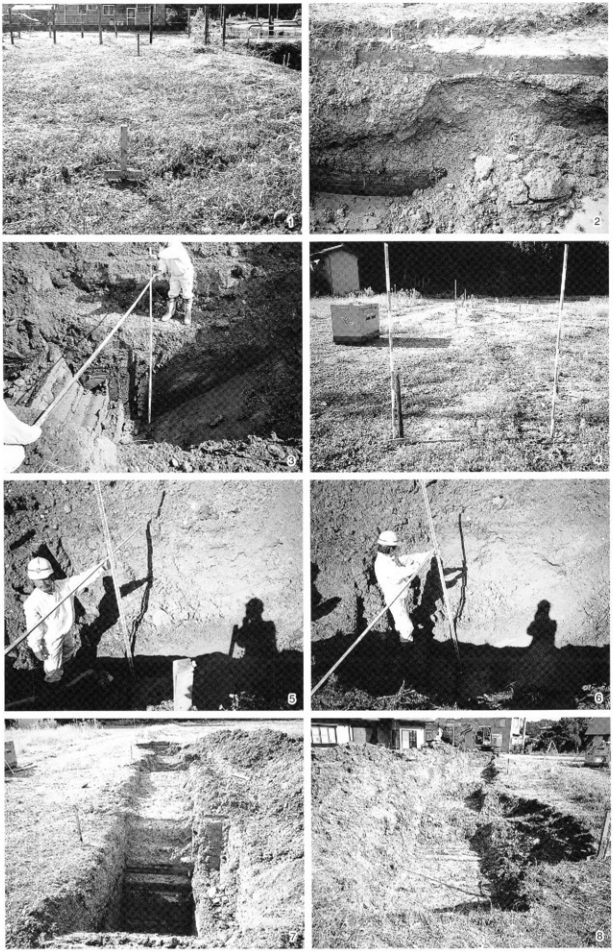
図版１　大野中遺跡・稲積天坂遺跡・NEJ−26・28　航空写真（1963年撮影）



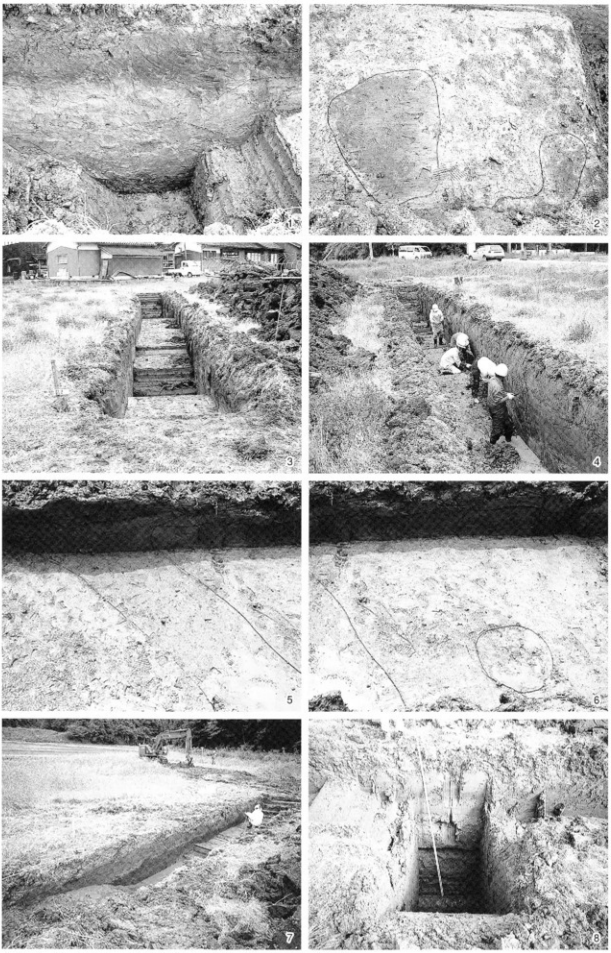
図版２　大野中遺跡・稲積天坂遺跡・NEJ－26・28　航空写真（2003年撮影）



図版3　大野中遺跡隣接地　1. T5土層　2. T5遺構　3. T5遺構　4. T5全景
5. T6土層　6. T7全景　7. T9土層　8. T10土層

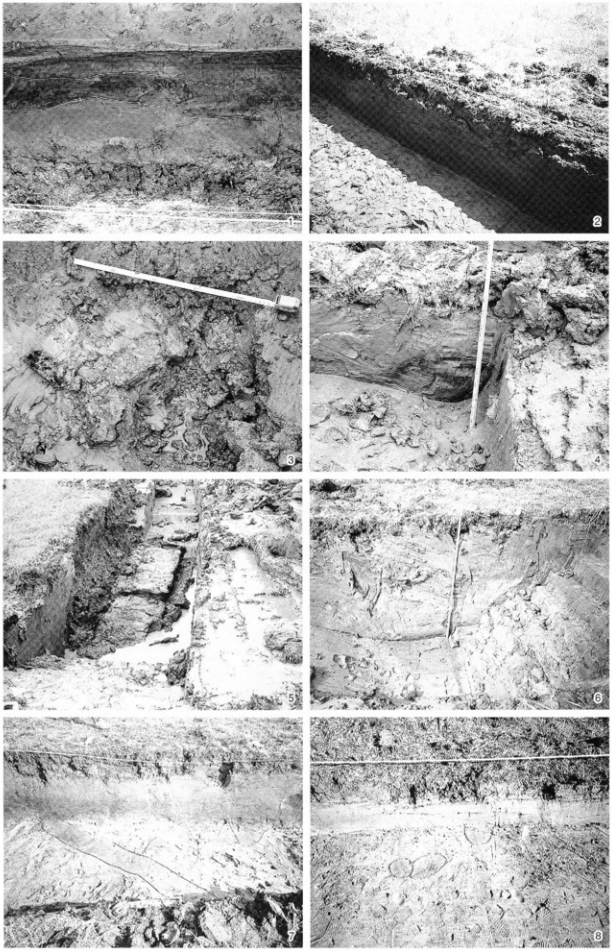


図版 4　稲積天坂遺跡隣接地　1. T11現況　2. T11盛土　3. T11土層　4. T12現況
5. T12土層・盛土　6. T12土層・盛土　7. T12全景　8. T12全景

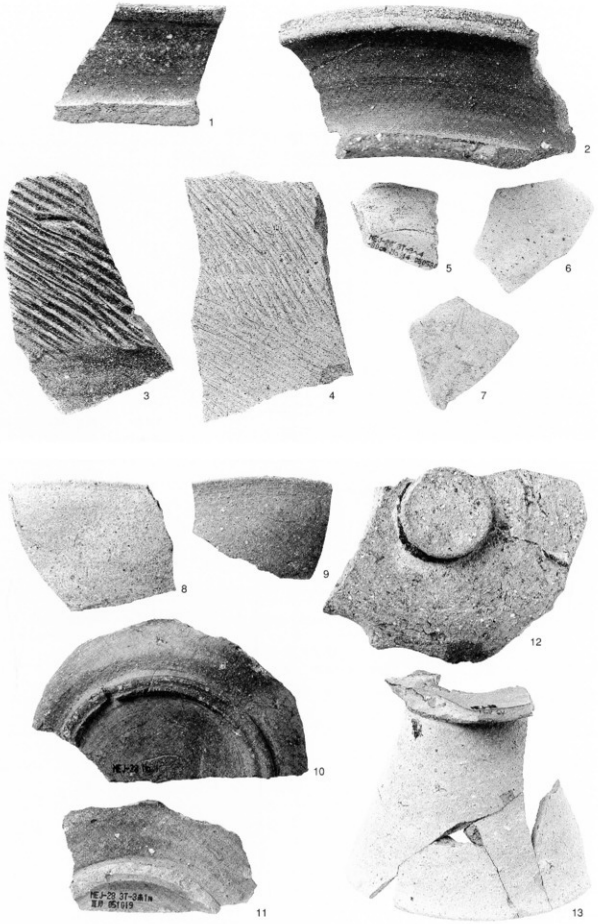


図版5　NEJ−26　1. T2土層　2. T2遺構　3. T2全景　4. T3作業風景
5. T4遺構　6. T4遺構　7. T5土層　8. T6深掘土層

図版6　NEJ−28　1. T1全景　2. T4遺構　3. T4遺構・遺物　4. T4遺構
5. T4作業風景　6. T5土層　7. T6遺構　8. T6全景



図版7　NEJ−28　1. T8土層　2. T13土層　3. T18遺物　4. T18土層
5. T18崩落状況　6. T21土層・遺構　7. T21遺構　8. T23遺構



図版8　出土遺物　1・2　大野中遺跡隣接地　3～7　ＮＥＪ－26
8～13　ＮＥＪ－28

報告書抄録

ふりがな	のうえつじどうしゃどうかんれんまいぞうぶんかざいほうぞうちょうさほうこく
書名	能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告－大野中遺跡隣接地・稲積大坂遺跡隣接地・NEJ－26（稲積オオヤチ南遺跡）・NEJ－28（稲積天坂北遺跡）－
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第32集
編著者名	金三津道子，新宅　斉
編集機関	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930-0887　富山県富山市五福4384番1号　TEL 076-442-4229
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
大野中遺跡 隣接地	氷見市 大野	16205	371	36°51′45″	136°57′27″	2005.10.25 ～ 2005.10.26	120 （対象面積7,012）	能越自動車道建設に伴う調査
稲積天坂遺跡 隣接地	氷見市 稲積	16205	374	36°52′19″	136°58′4″	2005.10.24	48 （対象面積653）	能越自動車道建設に伴う調査
NEJ－26	氷見市 稲積	16205	366	36°52′32″	136°58′34″	2005.5.30 ～ 2005.10.17	256 （対象面積5,921）	能越自動車道建設に伴う調査
NEJ－28	氷見市 稲積	16205	375	36°52′21″	136°58′30″	2005.5.30 ～ 2005.10.21	1,032 （対象面積22805）	能越自動車道建設に伴う調査

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大野中遺跡 隣接地	集落	古代	土坑	須恵器	路線内の遺跡範囲を確定した。 大野中遺跡とする。
稲積天坂遺跡 隣接地	－	－	無し	無し	路線内の遺跡範囲を確定した。 稲積天坂遺跡とする。
NEJ－26	集落	古代	土坑・溝	土師器・須恵器	稲積オオヤチ南遺跡とする。
NEJ－28	集落	中世 古代	土坑・溝	縄文土器・土師器・須恵器・珠洲・越中瀬戸・近世磁器・木製品	稲積天坂北遺跡とする。

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第32集

能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告

－大野中遺跡隣接地・稲積天坂遺跡隣接地・
ＮＥＪ－26（稲積オオヤチ南遺跡）・ＮＥＪ－28（稲積天坂北遺跡）－

編集・発行　財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887　富山市五福4384番１号
ＴＥＬ　076－442－4229
発行日　2006（平成18）年３月31日
印刷　大東印刷株式会社